

CHARLES-ÉMILE JACQUE

シャルル = エミール・ジャック (1813~1894)

作品名

居眠りする羊飼いの少女 1869年作



# CHARLES-ÉMILE JACQUE

シャルル = エミール・ジャック (1813~1894)

作品名 居眠りする羊飼いの少女 1869年作



# CHARLES-ÉMILE JACQUE

シャルル = エミール・ジャック (1813~1894)



作品名 The Shepherdess 1869 年作  
種類 pastel on brown wove paper  
サイズ 52.6×94.9 cm  
※ワシントンナショナルギャラリーにパステル画の習作(下絵)所蔵

作品名 居眠りする羊飼いの少女 1869年作

種類 キャンバスに油彩 (本画)

サイズ 53.7×95.2 cm

※Vincent MARILLIER 証明書付

## 略 歴 バルビゾン 七星の一人

1813 パリに生まれる。

地図の版画職人の見習いに入る。

1830 その後、志願して6年間軍隊生活を送る。  
兵役後、渡英。イギリスにて挿絵を制作(約2年間)  
フランス帰国後、銅板画家、挿絵画家として活動(1843頃まで)

1840頃 モンマルトルの風景を描き始める

1845 エッチング(版画)でサロン入選。  
その後、版画家として幾度か入選。この頃、ミレーと出会う。

1849 暴動とコレラで混乱するパリを逃れ、ミレーと共にバルビゾンに移住。  
ミレーとは隣り合った家に住む。  
その後、家畜や農業をはじめ、主題も家畜が中心となる。  
ミレー、ルソーと共にバルビゾン派の基礎を築く

バルビゾンの村でジャックはミレーやルソーのすすめもあって油彩画を描きはじめ、版画時代に築きあげたすぐれた技巧を油彩画に反映し、羊の群れと羊飼いという牧歌的な主題を写實的に描いてたちまち人気画家となった。

1850代から1860年代にかけてサロンで3等賞を計7度受賞している。  
1854 バルビゾン村を去る

1861 サロンに絵画を初出品。1859年作のパステル画を元に油彩画を出品している。2等賞を受賞

その後、動物画が中心に  
1867 レジオン・ドヌール勲章を受章 1889年万博 絵画部門金賞、版画部門大賞  
1894 パリにて死去 1889

### 【展覧会歴】

Canton Art Institute、オハイオ州カントン、1944年1月6日~5月1日  
Les Animaliers and Animals in Early Nineteenth-Century French Art、  
School of Visual Arts、Visual Arts Musum、ニューヨーク、  
1985年4月8日~27日

# CHARLES-ÉMILE JACQUE

シャルル = エミール・ジャック (1813~1894)



作品名	居眠りする羊飼いの少女	1869年作
種類	キャンバスに油彩 (本画)	
サイズ	53.7×95.2cm	
※Vincent MARILLIER 証明書付		

作品名	The Shepherdess	1869年作
種類	pastel on brown wove paper	
サイズ	52.6×94.9 cm	
※ワシントンナショナルギャラリーにパステル画の習作 (下絵) 所蔵		

# CHARLES-ÉMILE JACQUE

シャルル＝エミール・ジャック (1813～1894)



作品名 池のほとりの羊飼いと羊

# CHARLES-ÉMILE JACQUE

シャルル = エミール・ジャック (1813~1894)



作品名 池のほとりの羊飼いと羊

種類 キャンバスに油彩

サイズ 82×66 cm

※サイン有り 「VincentMARILLIER」の鑑定書

本作品は「VincentMARILLIER」によって準備中のカタログレゾネに掲載

## 略 歴 バルビゾン 七星の一人

1813 パリに生まれる。

地図の版画職人の見習いに入る。  
その後、志願して6年間軍隊生活を送る。

1830 兵役後、渡英。イギリスにて挿絵を制作(約2年間) この間コンスタブルの影響を受ける。

フランス帰国後、銅板画家、挿絵画家として活動(1843頃まで)

1836 1836年から2年間シェークスピアの挿絵本制作の為イギリスに滞在

1840頃 モンマルトルの風景を描き始める

1845 エッチング(版画)でサロン入選。

その後、版画家として幾度か入選。この頃、ミレーと出会う。

暴動とコレラで混乱するパリを逃れ、ミレーと共にバルビゾンに移住。

1849 ミレーとは隣り合った家に住む。

その後、家畜や農業をはじめ、主題も家畜が中心となる。

ミレー、ルソーと共にバルビゾン派の基礎を築く

バルビゾンの村でジャックはミレーやルソーのすすめもあって油彩画を描きはじめ、版画時代に築きあげたすぐれた技巧を油彩画に反映し、羊の群れと羊飼いとという牧歌的な主題を写實的に描いてたちまち人気画家となった。

1850代から1860年代にかけてサロンで3等賞を計7度受賞している。

1854 バルビゾン村を去る

1861 サロンに絵画を初出品。パステル画を元に油彩画を出品している。2等賞受賞  
その後、動物画が中心に

1867 レジオン・ドヌール勲章を受章

1894 パリにて死去

### 【展覧会歴】

Canton Art Institute、オハイオ州カントン、1944年1月6日~5月1日

Les Animaliers and Animals in Early Nineteenth-Century French Art、

School of Visual Arts、Visual Arts Musum、ニューヨーク、

1985年4月8日~27日

# CHARLES-ÉMILE JACQUE

シャルル = エミール・ジャック (1813~1894)



作品名 帰途につく羊たちの群れ

種類 板に油彩 1856 年作

サイズ 30.0×60.0cm(仏変 12号)

※左下にサイン

## 略

## 歴

バルビゾン 七星の一人

- 1813 パリに生まれる。
- 1830 地元の版画職人の見習いに入る。その後、志願して6年間軍隊生活を送る。  
兵役後、渡英。イギリスにて挿絵を制作(約2年間) フランス帰国後、銅板画家、挿絵画家として活動(1843頃まで)
- 1840頃 モンマルトルの風景を描き始める
- 1845 エッチング(版画)でサロン入選。その後、版画家として幾度か入選。この頃、ミレーと出会う。  
暴動とコレラで混乱するパリを逃れ、ミレーと共にバビルゾンに移住。
- 1849 ミレーとは隣り合った家に住む。その後、家畜や農業をはじめ、主題も家畜が中心となる。  
ミレー、ルソーと共にバルビゾン派の基礎を築く  
バルビゾンの村でジャックはミレーやルソーのすすめもあって  
油彩画を描きはじめ、版画時代に築きあげたすぐれた技巧を油彩画に  
反映し、羊の群れと羊飼という牧歌的な主題を写實的に描いてたちまち人気画家となった。
- 1861 サロンに絵画を初出品。その後、動物画が中心に
- 1894 パリにて死去

# CHARLES-ÉMILE JACQUE

シャルル = エミール・ジャック (1813~1894)



作品名 フォンテーヌブローの森の羊飼い

種類 キャンバスに油彩

サイズ 81.5×65.3 cm 仏F25号

1936年ニューヨーク、メトロポリタン美術館所蔵

## 略 歴 バルビゾン 七星の一人

1813 パリに生まれる。

地図の版画職人の見習いに入る。

1830 その後、志願して6年間軍隊生活を送る。  
兵役後、渡英。イギリスにて挿絵を制作(約2年間)  
フランス帰国後、銅板画家、挿絵画家として活動(1843頃まで)

1840頃 モンマルトルの風景を描き始める

1845 エッチング(版画)でサロン入選。  
その後、版画家として幾度か入選。この頃、ミレーと出会う。

1849 暴動とコレラで混乱するパリを逃れ、ミレーと共にバルビゾンに移住。  
ミレーとは隣り合った家に住む。  
その後、家畜や農業をはじめ、主題も家畜が中心となる。  
ミレー、ルソーと共にバルビゾン派の基礎を築く

バルビゾンの村でジャックはミレーやルソーのすすめもあって  
油彩画を描きはじめ、版画時代に築きあげたすぐれた技巧を油彩画に  
反映し、羊の群れと羊飼いという牧歌的な主題を写實的に描いて  
たちまち人気画家となった。

1854 1850代から1860年代にかけてサロンで3等賞を計7度受賞している。  
バルビゾン村を去る

1861 サロンに絵画を初出品。1859年作のパステル画を元に油彩画を出品している。その後、  
動物画が中心に。2等賞を受賞

1867 レジオン・ドヌール勲章を受章

1894 パリにて死去

### 【展覧会歴】

Canton Art Institute、オハイオ州カントン、1944年1月6日~5月1日  
Les Animaliers and Animals in Early Nineteenth-Century French Art、  
School of Visual Arts、Visual Arts Museum、ニューヨーク、  
1985年4月8日~27日

# CHARLES-ÉMILE JACQUE

シャルル = エミール・ジャック (1813~1894)



作品名 川の傍の羊飼いと羊の群れ

種類 キャンバスに油彩

サイズ 24.1×31.1 cm

※右下にサイン 裏面に Bernheim-Jeune

## 略 歴 バルビゾン 七星の一人

- 1813 パリに生まれる。
- 地図の版画職人の見習いに入る。  
その後、志願して6年間軍隊生活を送る。
- 1830 兵役後、渡英。イギリスにて挿絵を制作(約2年間) この間コンスタブルの影響を受ける。  
フランス帰国後、銅板画家、挿絵画家として活動(1843頃まで)
- 1836 1836年から2年間シェークスピアの挿絵本制作の為イギリスに滞在
- 1840頃 モンマルトルの風景を描き始める
- 1845 エッチング(版画)でサロン入選。  
その後、版画家として幾度か入選。この頃、ミレーと出会う。
- 暴動とコレラで混乱するパリを逃れ、ミレーと共にバルビゾンに移住。  
ミレーとは隣り合った家に住む。
- 1849 その後、家畜や農業をはじめ、主題も家畜が中心となる。  
ミレー、ルソーと共にバルビゾン派の基礎を築く
- バルビゾンの村でジャックはミレーやルソーのすすめもあって油彩画を描きはじめ、版画時代に築きあげたすぐれた技巧を油彩画に反映し、羊の群れと羊飼いとという牧歌的な主題を写實的に描いてたちまち人気画家となった。
- 1850代から1860年代にかけてサロンで3等賞を計7度受賞している。
- 1854 バルビゾン村を去る
- 1861 サロンに絵画を初出品。パステル画を元に油彩画を出品している。2等賞受賞  
その後、動物画が中心に
- 1867 レジオン・ドヌール勲章を受章
- 1894 パリにて死去

### 【展覧会歴】

Canton Art Institute、オハイオ州カントン、1944年1月6日~5月1日  
Les Animaliers and Animals in Early Nineteenth-Century French Art、  
School of Visual Arts、Visual Arts Museum、ニューヨーク、  
1985年4月8日~27日

# CHARLES-ÉMILE JACQUE

シャルル＝エミール・ジャック(1813～1894)



作品名 羊飼いの少女

種類 板に油彩

サイズ 47.0×38.0 cm(変仏8号)

左下にサイン有り

## 略 歴 バルビゾン 七星の一人

1813 パリに生まれる。

地元の版画職人の見習いに入る。

1830 その後、志願して6年間軍隊生活を送る。  
兵役後、渡英。イギリスにて挿絵を制作(約2年間)  
フランス帰国後、銅板画家、挿絵画家として活動(1843頃まで)

1840 頃 モンマルトルの風景を描き始める

1845 エッチング(版画)でサロン入選。

その後、版画家として幾度か入選。この頃、ミレーと出会う。

1849 ディアズ・ド・ラ・ペーニャとの出会いからバルビゾン村に住むようになり、ミレーやルソーとも親交を深める

暴動とコレラで混乱するパリを逃れ、ミレーと共にバルビゾンに移住。

1849 ミレーとは隣り合った家に住む。  
その後、家畜や農業をはじめ、主題も家畜が中心となる。  
ミレー、ルソーと共にバルビゾン派の基礎を築く

バルビゾンの村でジャックはミレーやルソーのすすめもあって油彩画を描きはじめ、版画時代に築きあげたすぐれた技巧を油彩画に反映し、羊の群れと羊飼いという牧歌的な主題を写実的に描いてたちまち人気画家となった。

1854 バルビゾン村を去る

1861 サロンに絵画を初出品。パステル画を元に油彩画を出品している。2等賞受賞  
その後、動物画が中心に

1867 レジオン・ドヌール勲章を受章。

1894 パリにて没す。

# CHARLES-ÉMILE JACQUE

シャルル = エミール・ジャック (1813~1894)



作品名 (左)羊飼いの少女 (右)羊の群の帰り 中村コレクションの秘蔵作品

ジャックの【羊飼いの少女】と中村コレクションの秘蔵の作品【羊の群れの帰り】の比較、この作品は非常によく似ているが同じ時期に描かれた作品ではないと思われる。ジャックの作品で羊飼いが絵の主役になる事は少ない、ジャックの通例に反してこの二点の作品の中心は女性の羊飼いである。

右の作品は、ほぼ中央に壁に右肘を付き寄りかかりながら左手で杖をしっかり握っている、そうしながら羊の群れが小屋に入っていく様子を注意深く眺めている。羊の群れを一日中バルビゾン周辺の平原を連れ歩いてようやく羊小屋までたどり着き最後の羊の番なのだろう、牧羊犬も日が陰り始めて暗い小屋の中に入り込む羊の群れを見張っている様子が見事に描かれている。左下に鶏が餌を啄んでいる光景がまた一日ののどかな暮らしを演出している。

もう一方の作品左の作品は非常に透明感が有り空気感が感じられ、色彩もよりリアルに描かれており、全体の構図も大きくゆったりと描かれ細部にわたり極め細かく表現されている。少女の足が素足であり、牧羊犬も羊飼いの少女の足元に横になって有らぬ方を見ている。ここまで連れ帰ったら羊が羊小屋に入るのが当然と言っている様なのである。羊飼いの少女は入口の壁に寄りかかりながら編み物に熱中している。その隣の小屋の入口の奥にうっすらと小屋の内部が描かれているこのトーンの影としての使い方は表と中の陰影の違いが見事にえがかれ、また鶏の表情が農家の平穏な暮らしぶりを描き切っている。この作品は絵として非常に優れており、絵筆のタッチが余すことなく細やかに繊細にそして質感が色彩と相まって、より明るく描かれている。

この2点の作品は同じ場所を描きながらも随分と違いが有る。任務を果たすのがもう少しで終わると言うのと、もう羊飼いの仕事が慣れ切って目をつぶってでも出来るというような違いがはっきりと表れている。

右の作品はミレーの描き方にもよく似通っている、油彩の描き方をミレーから教わっているから、ミレーに似るのは当然であろう。左の作品は羊飼いの少女の顔の表情がよく見て取れる非常に写實的に描かれており後半のジャックの作品である。

# CHARLES-ÉMILE JACQUE

シャルル = エミール・ジャック (1813~1894)



作品名 木の下で憩う羊飼いと羊の群れ

種類 キャンパスに油彩

サイズ 81.5×65.0cm

※左下にサイン

## 略 歴 バルビゾン 七星の一人

1813 パリに生まれる。

1830 地図の版画職人の見習いに入る。  
その後、志願して6年間軍隊生活を送る。  
兵役後、渡英。イギリスにて挿絵を制作 (約2年間)  
フランス帰国後、銅板画家、挿絵画家として活動 (1843頃まで)

1840 頃 モンマルトルの風景を描き始める

1845 エッチング (版画) でサロン入選。  
その後、版画家として幾度か入選。この頃、ミレーと出会う。

1849 暴動とコレラで混乱するパリを逃れ、ミレーと共にバルビゾンに移住。  
ミレーとは隣り合った家に住む。  
その後、家畜や農業をはじめ、主題も家畜が中心となる。  
ミレー、ルソーと共にバルビゾン派の基礎を築く

バルビゾンの村でジャックはミレーやルソーのすすめもあって  
油彩画を描きはじめ、版画時代に築きあげたすぐれた技巧を油彩画に  
反映し、羊の群れと羊飼いという牧歌的な主題を写實的に描いて  
たちまち人気画家となった。  
1850代から1860年代にかけてサロンで3等賞を計7度受賞している。  
1854 バルビゾン村を去る

1861 サロンに絵画を初出品。この作品を元に油彩画を出品している。その後、動物画が中心に

1867 レジオン・ドヌール勲章を受章

1894 パリにて死去

ハウステンボス50周年記念特別展

【ミレーとバルビゾン派・自然を愛した画家たち】

1997年ハウステンボス美術館出品

2003年「ミレーとバルビゾン派の画家たち展」

大丸ミュージアム梅田・毎日新聞社出品

# CHARLES-ÉMILE JACQUE

シャルル = エミール・ジャック (1813~1894)



作品名 牛飼い

種類 パネル油彩

サイズ 46.0×38.0cm(仏8号)

※Michel Rodrigue 鑑定書付き

## 略 歴 バルビゾン 七星の一人

1813 パリに生まれる。

地元の版画職人の見習いに入る。

1830 その後、志願して6年間軍隊生活を送る。  
兵役後、渡英。イギリスにてシェークスピアの挿絵を制作(約2年間)  
フランス帰国後、銅板画家、挿絵画家として活動(1843頃まで)

1840 頃 モンマルトルの風景を描き始める

1845 エッチング(版画)でサロン入選。  
その後、版画家として幾度か入選。この頃、ミレーと出会う。

1849 暴動とコレラで混乱するパリを逃れ、ミレーと共にバルビゾンに移住。  
ミレーとは隣り合った家に住む。  
その後、家畜や農業をはじめ、主題も家畜が中心となる。  
ミレー、ルソーと共にバルビゾン派の基礎を築く

バルビゾンの村でジャックはミレーやルソーのすすめもあって  
油彩画を描きはじめ、版画時代に築きあげたすぐれた技巧を油彩画に  
反映し、羊の群れと羊飼いという牧歌的な主題を写實的に描いて  
たちまち人気画家となった。

1861 サロンに絵画を初出品、2等賞、64年に2等賞を得た。

1867 レジョン・ドヌール勲章を受章する。

1889 パリ万博で絵画部門金賞と版画部門大賞を受賞する。

羊と羊の群れを多く描き【羊飼いの画家】として知られ、羊の性質などを微妙に捉え、温かく描き出し【羊のラファエロ】と呼ばれ人々の人気を集めた。

1894 パリで没。バルビゾン派の中でも最も長命であった。

# CHARLES-ÉMILE JACQUE

シャルル = エミール・ジャック (1813~1894)



左 1859年作 右 1861年作 (オルセー美術館所蔵)



## 風景の中の羊の群れ

作品名 もしくは平原で羊の群れを連れた羊飼い

種類 紙にコンテ・パステル 1859年作

サイズ 61.7×97.8 cm 仏40号

遠景の森の絵は鉛筆デッサンの後に白濁色の霞をかけて遠景に押しやっているシャイイの村の森影であろうか、左反面の森はフォンテーヌブローの森である。朝日に輝くフォンテーヌブローの森影から朝日が昇ってくる朝露に光り白く輝く羊たちの群れ、羊達は生き生きと描かれ、光が降り注ぎ平原の全てを照らす。羊たちと羊飼いその大地に余すところなく光り輝く、光を意識してその効果を十分にいかした表現は秀逸で、群れる羊の描写の冴えはジャックならではのものである。正に印象派の曙を作る傑作である。1859年に描かれたこの作品はち密に細部にわたって描かれている。

1861年にこの作品(左)と同じ構成で大きさが176×280cmと雄大な作品が油彩で描かれ他の3点と共に初めてサロンに出品されている。最初に描かれたこの作品の構成力や色彩の光の表現がそしてデッサン力が秀でて朝の自然の中に溶け込んでいるこの作品を油彩で描き小品の多いジャックにしては異例の大きさだが、ここにサロンに出品して、自らの芸術の真価を問おうとした彼の意気込が感じられる。この作品は現在オルセー美術館に所蔵されている。

# CHARLES-ÉMILE JACQUE

シャルル = エミール・ジャック (1813~1894)



作品名 バルビゾンの雄鶏と雌鶏

種類 板に油彩

サイズ 12.4×15.6cm

鑑定書 Vincent MARILLIER  
ナルシス=ディアズ・ド・ラ・ペニャに献辞した記述あり

## 略 歴 バルビゾン 七星の一人

1813 パリに生まれる。

地元の版画職人の見習いに入る。

その後、志願して6年間軍隊生活を送る。

1830 兵役後、渡英。イギリスにて挿絵を制作(約2年間) この間コンスタブルの影響を受ける。

フランス帰国後、銅板画家、挿絵画家として活動(1843頃まで)

1836 1836年から2年間シェークスピアの挿絵本制作の為イギリスに滞在

1840頃 モンマルトルの風景を描き始める

1845 エッチング(版画)でサロン入選。

その後、版画家として幾度か入選。この頃、ミレーと出会う。

暴動とコレラで混乱するパリを逃れ、ミレーと共にバルビゾンに移住。

1849 ミレーとは隣り合った家に住む。

その後、家畜や農業をはじめ、主題も家畜が中心となる。

ミレー、ルソーと共にバルビゾン派の基礎を築く

バルビゾンの村でジャックはミレーやルソーのすすめもあって油彩画を描きはじめ、版画時代に築きあげたすぐれた技巧を油彩画に反映し、羊の群れと羊飼という牧歌的な主題を写実的に描いてたちまち人気画家となった。

1850代から1860年代にかけてサロンで3等賞を計7度受賞している。

1854 バルビゾン村を去る

1861 サロンに絵画を初出品。パステル画を元に油彩画を出品している。2等賞受賞  
その後、動物画が中心に

1867 レジオン・ドヌール勲章を受章

1894 パリにて死去

### 【展覧会歴】

Canton Art Institute、オハイオ州カントン、1944年1月6日~5月1日  
Les Animaliers and Animals in Early Nineteenth-Century French Art、  
School of Visual Arts、Visual Arts Museum、ニューヨーク、  
1985年4月8日~27日

# CHARLES-ÉMILE JACQUE

シャルル = エミール・ジャック (1813~1894)



作品名 果実のある生物

種類 パネル油彩

サイズ 37.0×76.0cm(仏8号)

※Michel Rodrigue 鑑定書付き

## 略 歴 バルビゾン 七星の一人

1813 パリに生まれる。

地元の版画職人の見習いに入る。

1830 その後、志願して6年間軍隊生活を送る。  
兵役後、渡英。イギリスにて挿絵を制作(約2年間)  
フランス帰国後、銅板画家、挿絵画家として活動(1843頃まで)

1840 頃 モンマルトルの風景を描き始める

1845 エッチング(版画)でサロン入選。  
その後、版画家として幾度か入選。この頃、ミレーと出会う。

1849 暴動とコレラで混乱するパリを逃れ、ミレーと共にバルビゾンに移住。  
ミレーとは隣り合った家に住む。  
その後、家畜や農業をはじめ、主題も家畜が中心となる。  
ミレー、ルソーと共にバルビゾン派の基礎を築く

バルビゾンの村でジャックはミレーやルソーのすすめもあって油彩画を描きはじめ、版画時代に築きあげたすぐれた技巧を油彩画に反映し、羊の群れと羊飼いという牧歌的な主題を写實的に描いてたちまち人気画家となった。

1854 バルビゾン村を去る

1861 サロンに絵画を初出品。その後、動物画が中心に

1894 パリにて死去